

四半期報告書

(第13期第3四半期)

自 平成21年1月1日

至 平成21年3月31日

株式会社アガスタ

東京都港区三田二丁目21番6号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	5
3 財政状態及び経営成績の分析	5

第3 設備の状況

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8
2 株価の推移	8
3 役員の状況	8

第5 経理の状況

1 四半期財務諸表	
(1) 四半期貸借対照表	10
(2) 四半期損益計算書	11
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	18

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年5月15日
【四半期会計期間】	第13期第3四半期（自平成21年1月1日至平成21年3月31日）
【会社名】	株式会社アガスタ
【英訳名】	AGASTA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 康二
【本店の所在の場所】	東京都港区三田二丁目21番6号
【電話番号】	03（5440）6226
【事務連絡者氏名】	管理本部 岩本 昌也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区三田二丁目21番6号
【電話番号】	03（5440）6226
【事務連絡者氏名】	管理本部 岩本 昌也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第3四半期累計期間	第13期 第3四半期会計期間	第12期
会計期間	自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日	自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日	自 平成19年7月1日 至 平成20年6月30日
売上高（千円）	1,380,926	339,351	6,685,693
経常利益又は経常損失（△） （千円）	△172,490	△76,909	244,866
当期純利益又は四半期純損失 （△）（千円）	△183,331	△76,981	143,313
持分法を適用した場合の投資利益 （千円）	—	—	—
資本金（千円）	—	364,250	364,250
発行済株式総数（株）	—	30,690	30,690
純資産額（千円）	—	912,837	1,126,858
総資産額（千円）	—	1,254,969	1,334,357
1株当たり純資産額（円）	—	29,743.82	36,717.46
1株当たり当期純利益又は 四半期純損失（△）（円）	△5,973.64	△2,508.37	4,669.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
1株当たり配当額（円）	—	—	1,000.00
自己資本比率（％）	—	72.7	84.4
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	150,538	—	468,973
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	△105,226	—	△207,232
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	264,801	—	△400,000
現金及び現金同等物の 四半期末（期末）残高（千円）	—	839,296	529,183
従業員数（人）	—	28	29

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がありませんので記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期会計期間において、当社の事業内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

4 【従業員の状況】

提出会社の状況

平成21年3月31日現在

従業員数（人）	28
---------	----

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 仕入実績

当第3四半期会計期間の仕入実績を仕入先分類別に示すと、次のとおりであります。

仕入先分類名	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)
	仕入高(千円)
テレビオークション オートオークション	33,374
中古車販売店等	13,319
大手自動車ディーラー	7,643
その他	3,384
合計	57,721

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 金額は車両仕入価格によっております。

(3) 受注実績

受注後売上計上が概ね1ヶ月以内であるため、記載を省略しております。

(4) 販売実績

当第3四半期会計期間の販売実績を販売先別に示すと、次のとおりであります。

販売先別	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)
輸出合計 (千円)	329,112
国内販売 (千円)	10,238
合計 (千円)	339,351

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当第3四半期会計期間の主要な輸出先及び輸出版売高及び割合は、次のとおりであります。

() 内は総販売実績に対する輸出高の割合であります。

輸出先	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)
アジア	188,365	57.2
アフリカ	95,078	28.9
オセアニア	17,599	5.3
ヨーロッパ	14,379	4.4
中南米・カリブ	13,690	4.2
合計	329,112 (97.0%)	100.0

3. 当第3四半期会計期間における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

販売先	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)
NAZA GROUP OF COMPANIES	154,730	45.6

4. 事業別の売上高は下記のとおりであります。

事業部	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)
BtoB販売	235,124	69.3
Web販売	104,226	30.7
合計	339,351	100.0

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的金融市場の混乱による急激な為替相場の変動や海外需要の落込みを受けて、国内の製造業を中心に企業収益は悪化し、雇用不安が増加する等、景気は後退局面に陥りました。

当社を取り巻く中古車輸出業界につきましては、第1四半期までは、日本からの輸出台数が順調に増加していましたが、第2四半期以降の急激な円高の進行や世界同時不況の影響を受けて、市場環境が一変して厳しい状況となりました。

このような厳しい市場環境の影響を受け、当社BtoB販売の主要販売先であるアジアエリアにおいても、急激な円高進行と現地の需要減退により、販売台数が大幅に減少いたしました。このような状況の中で個人のお客様が中心であるWeb販売を強化し、販売台数の確保に努めてまいりましたが、BtoB販売の減少を補うことはできず、非常に厳しい結果となりました。

(売上高)

当第3四半期会計期間における売上高は339百万円となりました。
事業部門別の業績につきましては以下のとおりであります。

①BtoB販売

主要販売先であるアジアエリアにおいて、急激な為替相場の変動により日本からの輸入価格が高騰したこと、さらに現地での需要減退の影響を受け、受注が大幅に減少いたしました。その他エリアにおいても、主要通貨に対する円高の影響で受注が減少し、その結果、売上高235百万円、販売台数188台となりました。

②Web販売

海外向け販売サイト「PicknBuy24.com」の利便性向上やマーケティング強化を継続して行ってまいりました。第2四半期において急激な為替変動の影響を受け、販売台数の増加が鈍化しましたが、第3四半期に入り、販売促進策として値引販売を実施したことや為替相場が若干円安傾向になったことから販売台数は第1四半期と同水準にまで回復いたしました。その結果、売上高104百万円、販売台数317台となりました。

(売上総利益及び営業損失)

BtoB販売における売上高の減少に加え、販売促進策や在庫圧縮を目的として値引販売を実施したことで1台当たりの売上総利益が減少いたしました。販売費及び一般管理費については、BtoB販売に関する商品管理ヤードを縮小する等、コスト削減を実施いたしました。Web販売にかかる広告宣伝・マーケティング費用及び人件費が増加したため94百万円となり、その結果、営業損失は76百万円となりました。

(経常損失及び四半期純損失)

経常損失につきましては、受取利息や為替差損等の計上により76百万円となり、四半期純損失につきましても、76百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期末の資産合計は、1,254百万円（前事業年度末比79百万円の減少）となりました。その主な要因は、たな卸資産の減少額319百万円によるものであります。当第3四半期末の負債合計は、342百万円（前事業年度末比134百万円の増加）となりました。その主な要因は、長期借入金を実行したことによる増加（295百万円）及び未払法人税等の減少（76百万円）等によるものであります。当第3四半期末の純資産合計につきましては、配当金の支払いによる利益剰余金の減少（30百万円）及び第3四半期純損失の計上（183百万円）により、912百万円（前事業年度末比214百万円の減少）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、第2四半期会計期間末に比べ、131百万円増加し、839百万円となりました。当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、139百万円となりました。これは主に税引前四半期純損失の計上額76百万円とたな

卸資産の減少額199百万円の差額によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、2百万円となりました。これは有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、5百万円となりました。これは長期借入金の返済額5百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社を取り巻く中古車輸出業界においては、第1四半期まではロシアを中心に需要が拡大し、日本からの輸出台数も順調に増加しておりましたが、第2四半期に入り、急激な円高の進行や世界同時不況の影響を受けて市場環境が一変して厳しい環境となり、当社においても販売台数が大幅に減少いたしました。

このような環境の中で当社は、BtoB販売における大口顧客との関係強化を図るとともにWeb販売をさらに強化し、販売台数の確保に努めてまいります。また輸出原価および販売管理費に関して、業務体制及び人員体制を見直し、商品管理ヤードの縮小や人件費の削減を実施する等、コスト削減を図り、収益の黒字化を目指してまいります。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

特記すべき事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	104,760
計	104,760

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成21年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	30,690	30,690	東京証券取引所 (マザーズ)	(注)
計	30,690	30,690	—	—

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減 額(千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年1月1日～ 平成21年3月31日	—	30,690	—	364,250	—	470,650

(5)【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年12月31日の株主名簿より記載しております。

① 【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 30,690	30,690	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	30,690	—	—
総株主の議決権	—	30,690	—

② 【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成21年1月	2月	3月
最高 (円)	28,600	29,000	26,000	24,200	19,900	18,420	14,990	10,500	8,900
最低 (円)	23,510	23,000	22,320	17,000	16,600	11,200	11,000	8,000	7,350

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び当第3四半期累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年3月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成20年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,139,296	729,183
売掛金	15,441	82,778
商品	45,185	364,533
その他	24,438	121,353
貸倒引当金	△1,000	△2,000
流動資産合計	1,223,361	1,295,848
固定資産		
有形固定資産	※1 10,100	※1 9,441
無形固定資産	12,060	19,104
投資その他の資産	9,447	9,963
固定資産合計	31,608	38,509
資産合計	1,254,969	1,334,357
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,909	40,192
1年内返済予定の長期借入金	60,000	—
未払法人税等	455	77,300
賞与引当金	1,779	3,403
その他	39,986	86,600
流動負債合計	107,132	207,498
固定負債		
長期借入金	235,000	—
固定負債合計	235,000	—
負債合計	342,132	207,498
純資産の部		
株主資本		
資本金	364,250	364,250
資本剰余金	470,650	470,650
利益剰余金	77,937	291,958
株主資本合計	912,837	1,126,858
純資産合計	912,837	1,126,858
負債純資産合計	1,254,969	1,334,357

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
売上高	1,380,926
売上原価	1,241,971
売上総利益	138,954
販売費及び一般管理費	* 312,116
営業損失(△)	△173,161
営業外収益	
受取利息	2,609
その他	633
営業外収益合計	3,242
営業外費用	
支払利息	2,470
その他	101
営業外費用合計	2,571
経常損失(△)	△172,490
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,000
特別利益合計	1,000
税引前四半期純損失(△)	△171,490
法人税、住民税及び事業税	217
法人税等調整額	11,623
法人税等合計	11,840
四半期純損失(△)	△183,331

【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)
売上高	339,351
売上原価	320,970
売上総利益	18,380
販売費及び一般管理費	※ 94,515
営業損失(△)	△76,135
営業外収益	
受取利息	1,137
その他	18
営業外収益合計	1,155
営業外費用	
支払利息	1,886
その他	42
営業外費用合計	1,929
経常損失(△)	△76,909
税引前四半期純損失(△)	△76,909
法人税、住民税及び事業税	72
法人税等調整額	—
法人税等合計	72
四半期純損失(△)	△76,981

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税引前四半期純損失 (△)	△171,490
減価償却費	9,420
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1,000
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,623
受取利息及び受取配当金	△2,609
支払利息	2,470
売上債権の増減額 (△は増加)	35,752
たな卸資産の増減額 (△は増加)	319,353
未収消費税等の増減額 (△は増加)	47,725
仕入債務の増減額 (△は減少)	△32,645
その他	21,066
小計	226,421
利息及び配当金の受取額	2,252
利息の支払額	△2,683
法人税等の支払額	△75,453
営業活動によるキャッシュ・フロー	150,538
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	200,000
定期預金の預入による支出	△300,000
有形固定資産の取得による支出	△5,347
敷金及び保証金の回収による収入	121
投資活動によるキャッシュ・フロー	△105,226
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△5,000
配当金の支払額	△30,198
財務活動によるキャッシュ・フロー	264,801
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	310,112
現金及び現金同等物の期首残高	529,183
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 839,296

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第3四半期累計期間
(自 平成20年7月1日
至 平成21年3月31日)

当第3四半期累計期間において、世界的金融危機の影響を受け、当社BtoB販売の主要販売先であるアジアエリアでの急激な円高の進行と、現地の需要減退により、販売台数が大幅に減少いたしました。その結果、売上高が前年同期比74.5%減少の1,380,926千円（前年同期は5,415,743千円）と著しく減少するとともに、173,161千円の営業損失並びに四半期純損失183,331千円を計上しており、当該状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

当社は当該状況を解消すべく、以下の経営計画を実施し、収益の黒字化に向けて改善を行っていく予定であります。

1. 売上高の確保

売上高につきましては、BtoB販売における大口顧客との関係強化を図るとともに、新たな顧客及び販売エリアの開拓を図り、またWeb販売では、中古車のグローバルオンラインショップ「Picknbuy24.com」の利便性向上やマーケティング強化を実施して販売台数を拡大し、売上高の確保に努めてまいります。

2. 輸出原価及び販売管理費の削減

輸出原価及び販売管理費に関して、BtoB販売に係るヤードの縮小や業務体制及び人員体制を見直しを行い、コスト削減に努めてまいります。

3. 財政状態の安定化

資金繰りの安定を図るため、平成20年11月及び12月に計3億円の長期借入（期間：5年）を実行いたしました。なお、当第3四半期会計期間末において1,139,296千円の手元流動性預金を保有しております。

以上の経営改善策を確実に遂行することにより、収益力の強化と財務健全性の確保を図ってまいります。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、このような重要な疑義の影響を四半期財務諸表には反映しておりません。

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
会計処理基準に関する事項 の変更	<p>たな卸資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、個別法による原価法によっておりましたが、第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。</p> <p>なお、この変更に伴う損益への影響はありません。</p>

【簡便な会計処理】

当第3四半期累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）
該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日）
該当事項はありません。

【注記事項】

（四半期貸借対照表関係）

当第3四半期会計期間末 (平成21年3月31日)	前事業年度末 (平成20年6月30日)						
<p>※1. 有形固定資産の減価償却累計額は、9,863千円であります。</p> <p>_____</p>	<p>※1. 有形固定資産の減価償却累計額は、8,508千円であります。</p> <p>2. 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>当座貸越極度額の総額</td> <td style="text-align: right;">900,000千円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">—</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td style="text-align: right;">900,000千円</td> </tr> </table>	当座貸越極度額の総額	900,000千円	借入実行残高	—	差引額	900,000千円
当座貸越極度額の総額	900,000千円						
借入実行残高	—						
差引額	900,000千円						

(四半期損益計算書関係)

当第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
※販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 89,099千円
賞与引当金繰入額 1,779千円

当第3四半期会計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年3月31日)
※販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 28,641千円
賞与引当金繰入額 1,799千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)
※現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日現在)
現金及び預金勘定 1,139,296千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金 <u>△300,000千円</u>
現金及び現金同等物 839,296千円

(株主資本等関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年3月31日)及び当第3四半期累計期間(自 平成20年7月1日 至 平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 30,690株
2. 自己株式の種類及び株式数
該当事項はありません。
3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年9月24日 定時株主総会	普通株式	30,690	1,000	平成20年6月30日	平成20年9月25日	利益剰余金

5. 株主資本の著しい変動に関する事項
株主資本の金額は、前事業年度末日と比較して著しい変動がありません。

(リース取引関係)

当第3四半期累計期間(自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)

当社は、所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、リース取引残高が前事業年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年3月31日)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当第3四半期累計期間(自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)

当社は、関連会社がありませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期会計期間(自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)

当社は、ストック・オプションを付与しておりませんので、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期会計期間(自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期会計期間末 (平成21年3月31日)	前事業年度末 (平成20年6月30日)
1株当たり純資産額 29,743.82円	1株当たり純資産額 36,717.46円

2. 1株当たり四半期純損失金額等

当第3四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
1株当たり四半期純損失金額 $\Delta 5,973.64$ 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失金額 $\Delta 2,508.37$ 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成21年3月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)
四半期純損失(千円)	183,331	76,981
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	183,331	76,981
期中平均株式数(株)	30,690	30,690

(重要な後発事象)

当第3四半期会計期間(自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年5月14日

株式会社アガスタ

取締役会 御中

三優監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 川野 佳範 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 海藤 丈二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アガスタの平成20年7月1日から平成21年6月30日までの第13期事業年度の第3四半期会計期間（平成21年1月1日から平成21年3月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成20年7月1日から平成21年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アガスタの平成21年3月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

1. 継続企業の前提に関する注記に記載のとおり、会社は当第3四半期累計期間において売上高が著しく減少していること及び重要な営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義が存在している。当該状況に対する経営者の対応等は当該注記に記載されている。四半期財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期財務諸表には反映していない。
2. 四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載のとおり、会社は当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用しているため、当該会計基準により四半期財務諸表を作成している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年5月15日
【会社名】	株式会社アガスタ
【英訳名】	AGASTA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 康二
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役管理本部長 田中郁恵
【本店の所在の場所】	東京都港区三田二丁目21番6号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役鈴木康二及び当社最高財務責任者田中郁恵は、当社の第13期第3四半期（自平成21年1月1日 至平成21年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。